

～大津地域での森林施業検討会を開催しました～

6月23日に大津の森林づくりを考える会では一昨年度より、架線系技術の検討・普及をはじめとした地域の実情に見合う森林施業検討会を行っています。今回は、今年度第1回目の検討会ということで、昨年度のふりかえりと今年度の取組について意見交換をしました。

その前に、琵琶湖環境科学研究センターの山本氏に「人工林伐採跡地の天然更新に関する研究について」とうテーマで、伐採後の更新と獣害対策については話題提供をいただきました。意見交換では、架線系搬出の人材育成について話がされ、架線系搬出のプランニングの研修会と実際の作業をする技術者向けの研修会と2つの研修会を秋以降に開催していこうということになりました。

西部・南部森林整備事務所(本所)では引き続き地域の実情に見合う森林施業技術の検討・普及を行って行きたいと思えます。



～大津・南部地域での木材流通検討会を開催しました～

7月13日に昨年度から行っている大津・南部地域での木材流通検討会の今年度第1回目の検討会を開催しました。

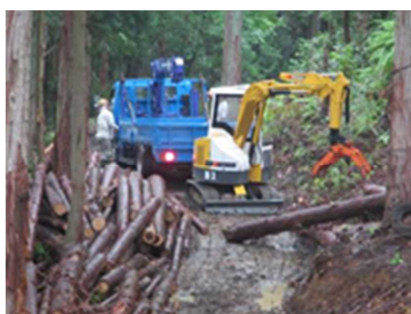
昨年度の検討では、大津・南部地域の木を地元の公共施設に利用してもらうために地域の製材所を中心とした協議会を設立して地域材の供給体制を作っていくということですが、今年度それをどう具体化していくのかについて話しあいました。

大津・南部地域は、滋賀県内でも人口が多く都市部の多い地域で木造の公共施設の需要も高い地域ですが、地域の木が使われない事例がみられます。理由はいろいろありますが、やはり設計者や施工者にとって信頼があり安定した供給体制を地域内の製材業者、木材業者が協力して作っていく必要があるのではないかとことです。

(株)自然産業研究所の中尾氏から紹介していただいた地域の製材業、木材業が連携して地域材を納材していくしくみなどを参考にさらに検討を深めたいと思えます。



あの人・この人
株式会社ノースビレッジ 北村さん



大津市仰木にある株式会社ノースビレッジは、上仰木棚田米の生産、販売を中心にされている新しい会社です。農産物の生産、加工、販売を行うと同時に、地元の山の間伐にも取り組まれています。

株式会社ノースビレッジの北村さんは上仰木でもともと農林業を営んでおられた関係で、自山の作業小屋には小型の集材機や林内作業車などが残されていて、これらの機械を使ってまずは2haの自山の間伐から手がけられています。作業は地元の元伐採業を行っていた人をアルバイトで雇い、建設解体用ではあるものの、小型のグラブとユニック付きのトラックを会社で購入し、本格的な架線系の搬出間伐を行っておられます。搬出した材については、甲賀林材に持っていき販売されています。

現在は農業中心の会社経営ですが、今後は、上仰木を中心とした地元の個人山の間伐を森林組合と連携しながら行い、ログハウスキットの製作や薪ストーブ用の薪の作成など扱う量は少ないが付加価値の高い林業経営を目指し、農業と一体となった6次産業化まで行けたらということです。

当事務所でも、この新しい形の自伐型林業を応援し地域の山の整備が進むように普及を進めていきたいと思っています。

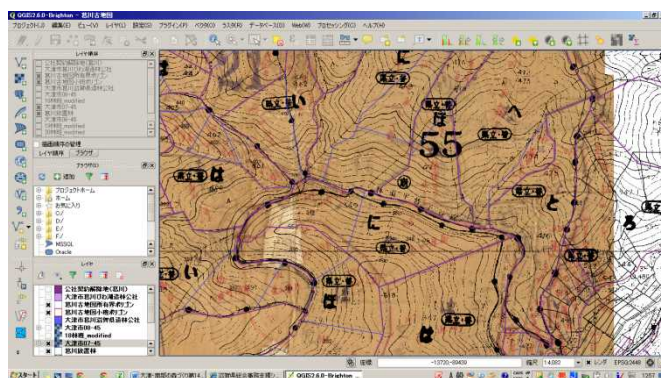
林業技術あれこれ
大津市葛川地区の森林施業図

昨年度（平成26年度）に滋賀南部森林組合北事業所で保管されていた旧葛川村時代に作成されたと思われる古い森林施業図をデータ化できないかという相談を受けました。この地図には、林小班界と詳細な所有界、地番、所有者目が記されているもので大変貴重な資料ではありますが、保管状態が悪く劣化が進んでいました。

実際の境界は境界明確化事業で行って行かなければ確定しないと思いますが、この地図を基にどこに誰の山があるのかのおおよその目安になります。

そこで、今年度、地元の森林組合とともに、この地図をデータ化してGIS上で管理できる状態にし、集約化に向けた基礎データとして活用していこうという作業を行っています。

これを機に葛川地区での集約化が進み木材生産も進めばと考えています。



平成27年度 西部・南部森林整備事務所（本所）

- 所長 神田 信行
- 次長 米田 稔（林業振興担当グループリーダー）
- 副参事 平田 明（林業振興担当）
- 副参事 仁科 克己（森林整備担当グループリーダー）



普及指導員

- 副主幹 鈴木 規夫
- 副主幹 田中 理
- 副主幹 芝田 理子

